

令和8年10月1日
物流・自動車局
自動車整備課

冬用タイヤ交換時には確実な作業の実施をお願いします！

大型車の冬用タイヤへの交換時期に車輪の脱落事故が増加する傾向を踏まえ、関係団体と連携して「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施し、タイヤ脱着時の確実な作業及び保守管理の徹底を呼びかけます。

- 令和7年度の大型車の車輪脱落事故発生件数は128件であり、令和6年度（120件）に比べ8件増加し、更なる対策が急務です。多くの事故車両において、タイヤ脱着作業時のさび取り清掃、各部位への潤滑剤の塗布及びホイール・ナットが円滑に回るかの点検等が不十分であることが確認され、さらに、保守管理においても、増し締め及び日常点検時のホイール・ナット緩み確認等が確実に実施されていないこと^(※)が確認されています。

※ 令和4年2月に設置された「大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会」による調査・分析結果

- 令和7年度の発生状況は以下のとおりでした。
- 約5割の事故が11月から1月の冬季3ヶ月間に発生
 - 5割以上の事故がタイヤ脱着作業後1ヶ月以内に発生
 - 9割以上の事故が左後輪にて発生
- こうした状況を踏まえ、関係団体と連携し、令和8年10月から令和9年2月にかけて「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン」を実施し、タイヤ脱着時の確実な作業及び保守管理の徹底を呼びかけます。

【主な取り組み】

- 運送事業者、タイヤショップ、整備事業者等に対し、チラシ、ポスター、SNS、各種研修等により、適切なタイヤ脱着作業や保守管理の徹底を周知
- 大型トラック運送事業者の経営者層に対し、社内関係者へ車輪脱落事故の危険性を伝え、適切なタイヤ脱着作業及び保守管理の徹底を周知
- 車輪脱落予兆検知装置の普及促進

＜添付資料＞

別紙1：車輪脱落事故発生状況
別紙2：大型車の車輪脱落事故防止のための啓発チラシ
別紙3：ホイールボルト、ナットやディスクホイール、ハブの錆に注意！啓発チラシ
別紙4：「車輪脱落予兆検知装置」導入のご案内

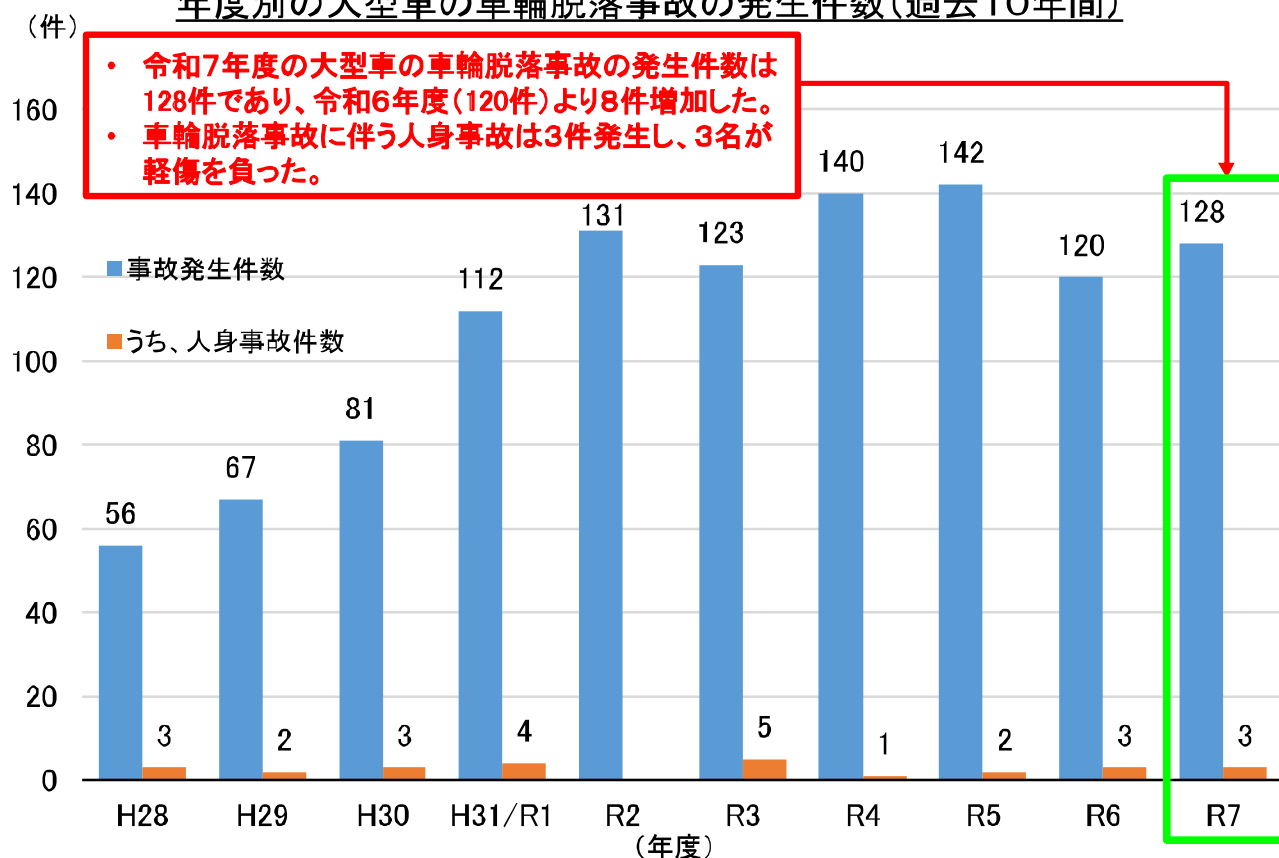
＜問い合わせ先＞

物流・自動車局自動車整備課 西村、坂本
代表：03-5253-8111（内線：42413）
直通：03-5253-8599

車輪脱落事故発生状況

別紙1

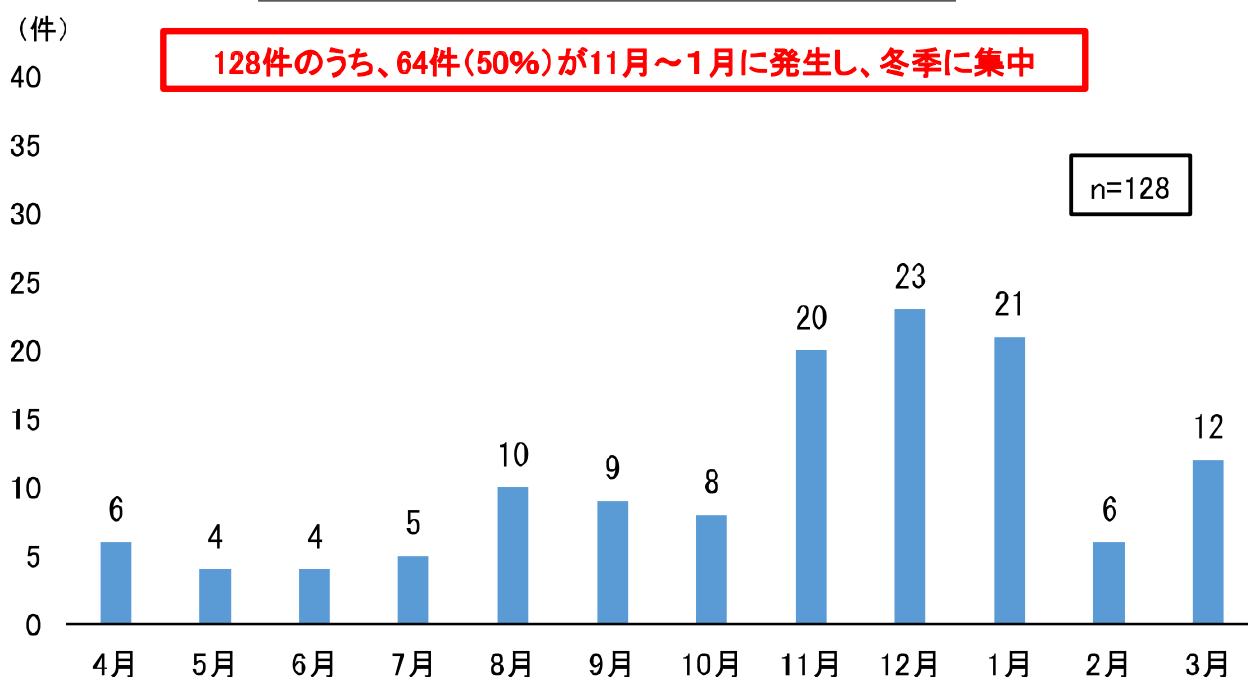
年度別の大型車の車輪脱落事故の発生件数(過去10年間)



※ 車両総重量8トン以上の自動車又は乗車定員30人以上の自動車であって、車輪を取り付けるホイール・ボルトの折損又はホイール・ナットの脱落により車輪が自動車から脱落した事故

出典: 自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

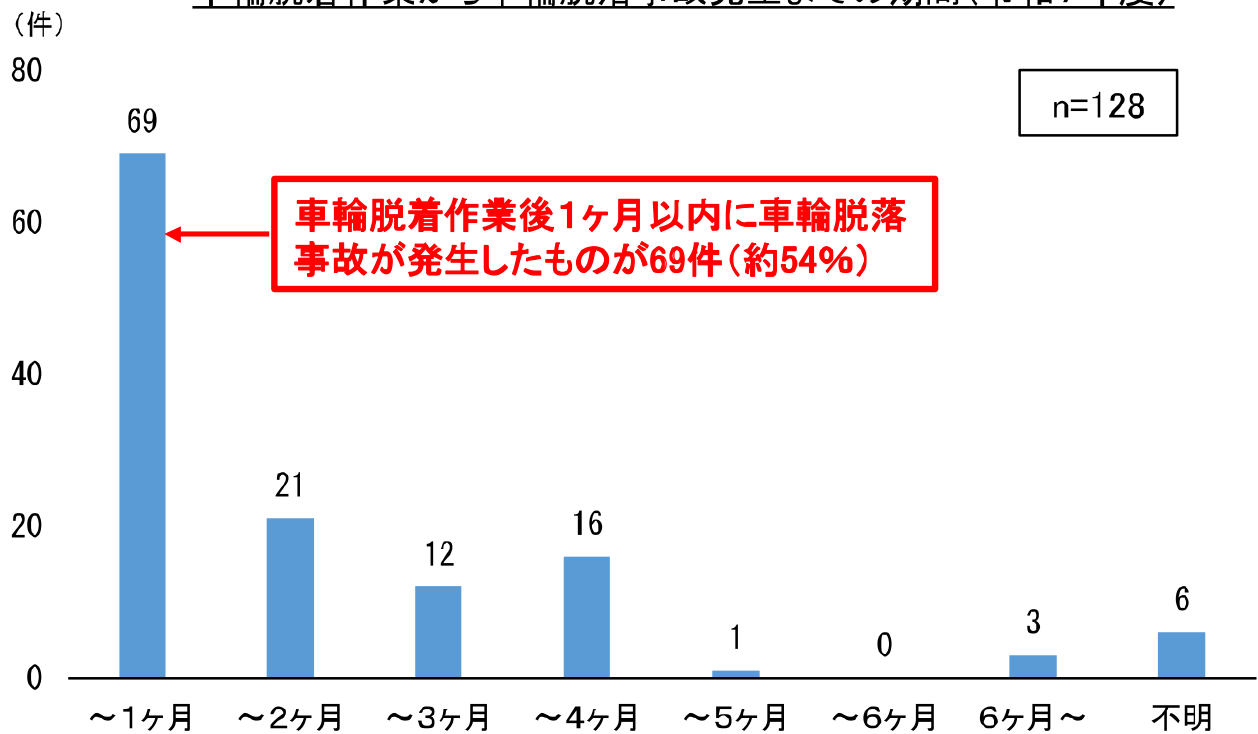
車輪脱落事故の月別発生件数(令和7年度)



出典: 自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

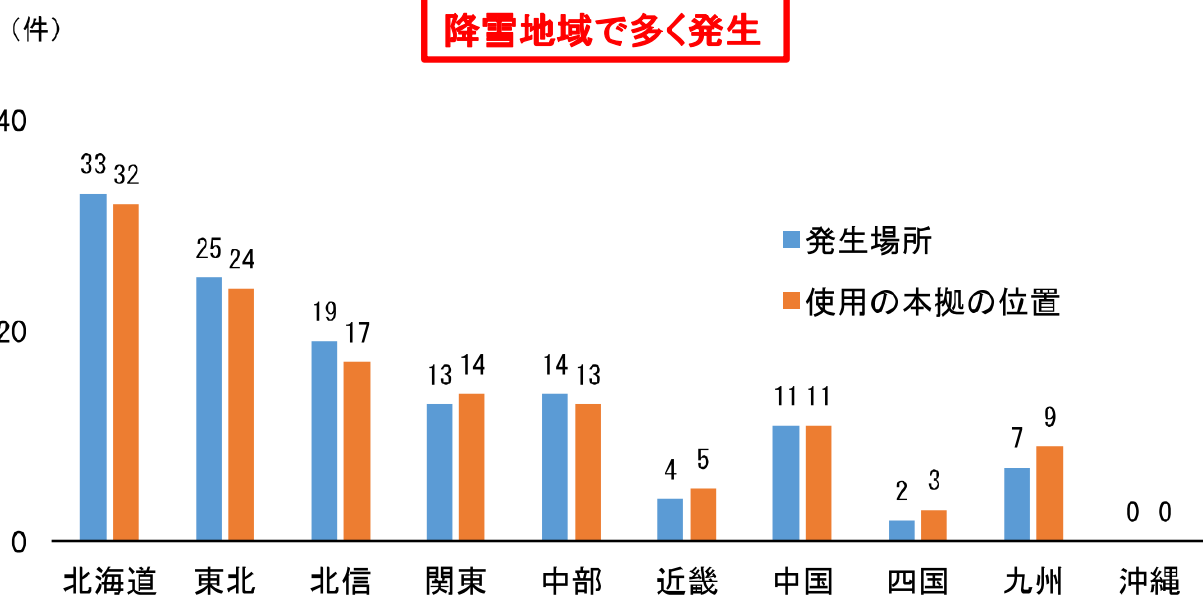
車輪脱落事故発生状況

車輪脱着作業から車輪脱落事故発生までの期間(令和7年度)



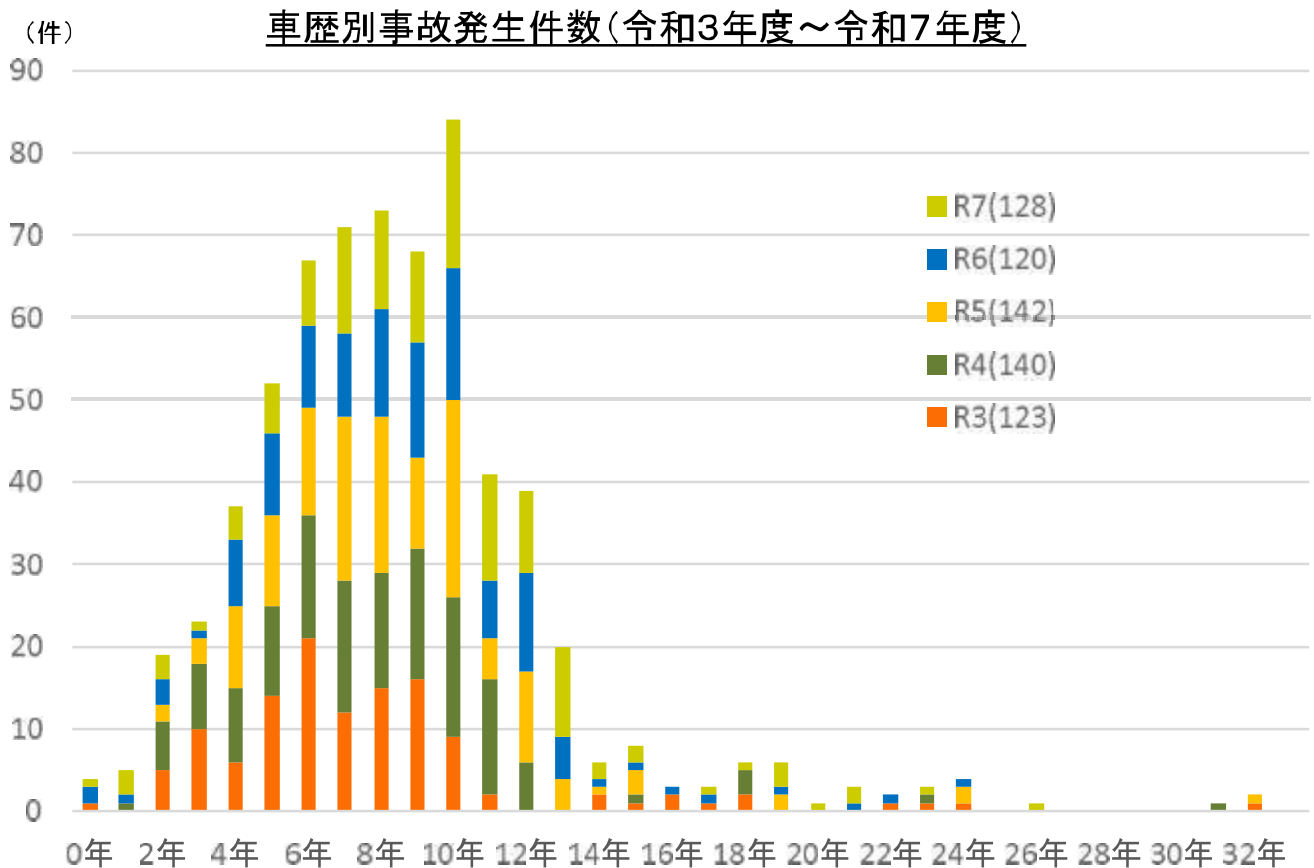
出典: 自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

事故発生場所別、使用の本拠の位置別発生件数(令和7年度)



出典: 自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

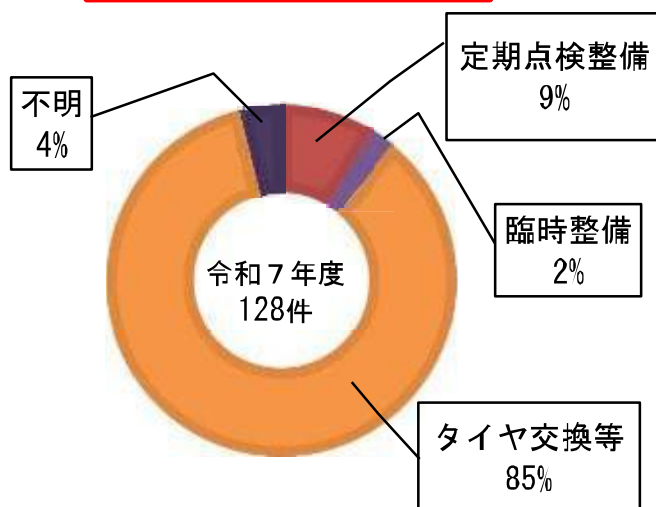
車輪脱落事故発生状況



出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

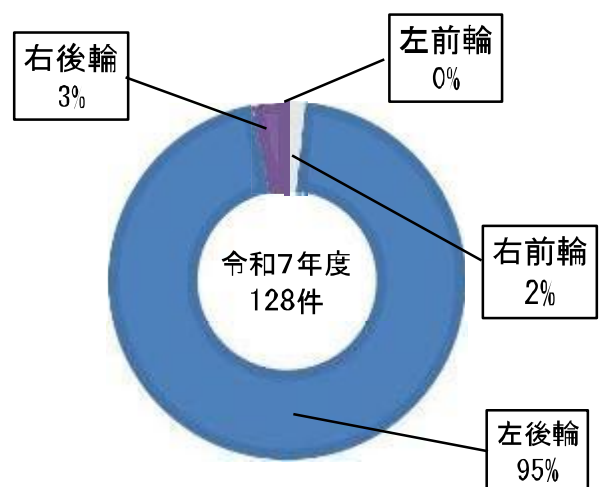
タイヤ脱着作業内容別

約85%がタイヤ交換等
作業実施後の脱落



脱落した車輪の位置

約95%が左後輪からの脱落

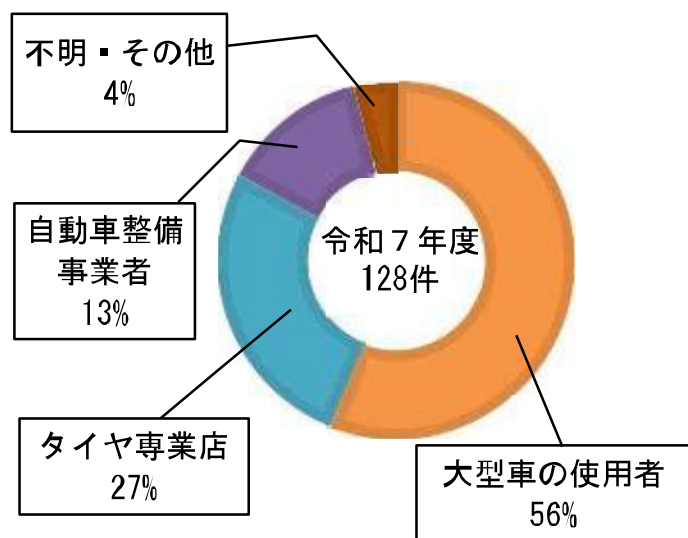


出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

車輪脱落事故発生状況

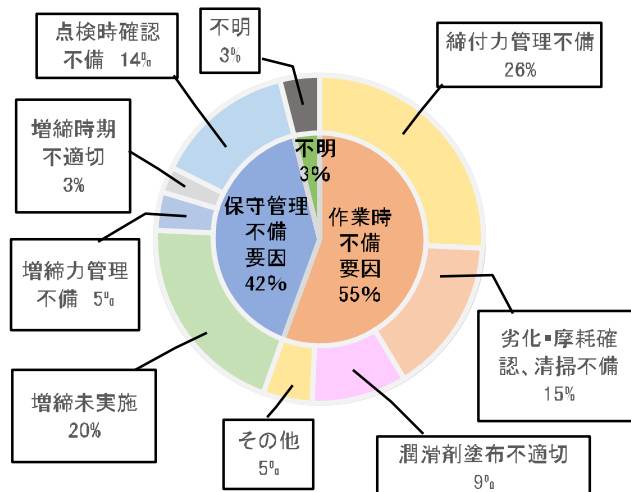
タイヤ脱着作業実施者別

約56%が大型車ユーザーによる
タイヤ脱着作業後の脱落



作業及び保守管理の不備

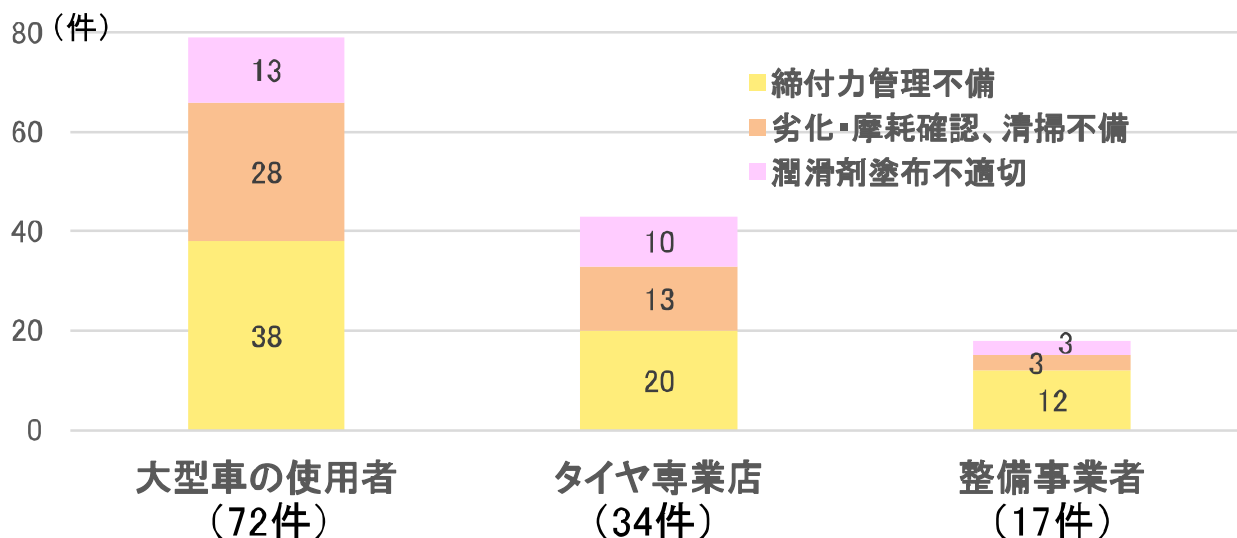
※ 1件の事故に複数の不備もあり



出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

タイヤ脱着作業実施者別タイヤ脱着作業時における不備（令和7年度）

- いずれの作業実施者においても、締付力管理不備が最も多く確認された。
- 一部の整備事業者では作業状況を映像で記録していたため、より詳細な内容の調査ができ、それによると、締付力管理不備の12件中6件でタイヤ脱着時のホイール・ナット締め忘れが確認された。
- また、いずれの作業実施者においても、潤滑剤塗布不適切が未だに多く確認されている状況。



※ タイヤ脱着作業実施者属性下段記載のカッコ書きは車輪脱落事故件数。なお、1件の事故に複数の不備があるため事故件数と不備件数は一致しない

出典：自動車事故報告規則に基づく報告及び自動車メーカーからの報告

車輪脱落事故車両調査

- 令和7年度に発生した車輪脱落事故車両172台のうち85台に対して、各部品に劣化・損傷状態や、タイヤ脱着作業の実施状況を確認する事故車両調査を実施した。
- 事故車両調査の結果、
 - ・ホイール・ナットとワッシャのすき間に潤滑剤の塗布が見られず、ホイール・ナットとワッシャがスムーズに回転しないものや、ワッシャが固着しているもの
 - ・ホイール・ボルトやナットに著しいさびがあるものや、ゴミ等の異物が付着しているもの
 - ・ディスク・ホイールやハブ等に著しいさびがあるもの等、適切なタイヤ脱着作業が実施されていない車両が確認された。

事故車両調査により確認された各部品の劣化・損傷事例

潤滑剤が塗布されていない



ホイール・ナットが固着し、油分が付着していなかった。

締め付け不良・潤滑剤が塗布されていない



ホイール・ボルトのねじ部に発錆と痩せを確認。また、油分が付着していなかった。

ディスク・ホイールやハブの錆び



ディスク・ホイールの表面全体が錆びている。



ハブのディスク・ホイール当たり面に錆が付着。

防ぎよう

大型車の車輪脱落事故

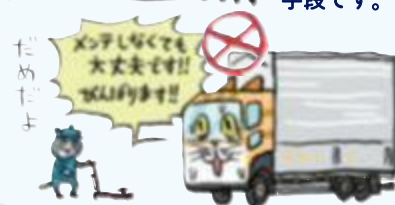
トルクレンチで
適正締付

適正なトルクレンチによる規定トルクの締め付け、タイヤ交換後の増し締めの実施。

手クレンチで

おとさめ
ための
点検整備

事前の正しい点検が大きな事故を未然に防ぐ唯一かつ最善の手段です。



とおと

さびたナットは
清掃・交換

まだ使える!!



ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブの取付面、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、追加塗装などを取り除きます。

この2つが
特に重要!
事故の多くは清掃・給脂の
不足が原因!ナット・ワッシャー
隙間に給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部と、ナットとワッシャーもすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑油を薄く塗布し、回転させて油をなじませてください。

な

いちにち一度は
ゆるみの点検

運行前に特に脱落が多い左後輪を中心に、ボルト、ナットを目で見て手で触るなどして点検します。

©くまね工房

車輪脱落予兆検知装置を
取り付けよう!

ホイールナットの緩みなどによる車輪脱落の予兆を検知し、ドライバーに警報。事故防止と負担軽減に役立ちます。

※機能には限界があります。「おとさない」の徹底をお願いします。

詳しい情報は日本自動車工業会ホームページへ
http://www.jama.or.jp/truck-bus/wheel_fall_off/

国土交通省 自動車点検整備推進協議会 大型車の車輪脱落事故防止対策に係る調査・分析検討会 日本自動車工業会 (いすゞ自動車 日野自動車 三菱ふそうトラック・バス UDトラックス) 全日本トラック協会 日本バス協会 全国自家用自動車協会 日本自動車整備振興会連合会 日本自動車販売協会連合会 全国タイヤ商工協同組合連合会 日本自動車タイヤ協会 全国石油商業組合連合会 日本自動車車体工業会 日本自動車輸入組合 日本自動車機械工具協会 日本自動車機械器具工業会 自動車用品小売業協会 日本自動車車体整備協同組合連合会



タイヤ交換などホイール脱着時の **不適切な作業**

インパクトレンチだけで締め付け
錆びたナットを再使用
規定トルク未確認 など

が

原因で車輪脱落事故が発生しています。

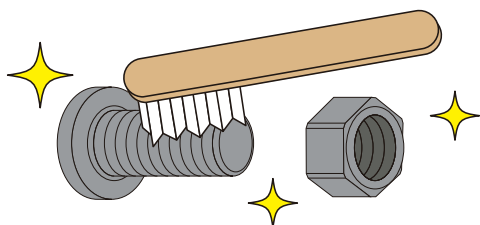
正しい車輪の取り扱いで 車輪脱落事故ゼロへ。



下記3つの注意点について、車載の「取扱説明書」などを参照し、正しい作業をお願いします。

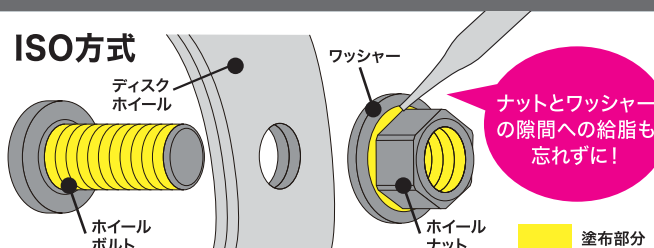
ホイール脱着作業の3つのポイント

1 ホイールボルト・ナット などを清掃・交換する



ディスクホイール取付面、ホイールナット当たり面、ハブ取付面 (ISO方式では、ハブのはめ合い部も)、ホイールボルト、ナットの錆やゴミ、泥、追加塗装などを取り除きます。錆び、亀裂、損傷が著しい場合は交換してください。

2 ホイールボルト・ナット などに潤滑剤を塗布



ホイールボルト、ナットのねじ部、ナットとワッシャーのすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑剤を薄く塗布し、回転させて油をなじませます。ワッシャーがスムーズに回転するか点検し、スムーズに回転しない場合はナットを交換してください。
注) ナットの座面 (ディスクホイールとの当たり面) には塗布しないでください。

3 ホイールナットの締め付けをする

必ず規定の締め付けトルクで
締め付けを行ってください。

ホイールの締め付け方式には、球面座で締め付けるJIS方式と、平面座で締め付けるISO方式があります。また「排出ガス規制・ポスト新長期規制適合」大型車から、左右輪・右ねじとする「新・ISO方式」を採用しました。取り扱い方法をご確認いただき、適切なタイヤ交換作業の実施をお願いします。

ホイール締め付け方式	ISO方式 (8穴、10穴)
ホイールサイズとボルト本数 (PCD)	19.5インチ:8本 (PCD275mm) / 22.5インチ:10本 (PCD335mm)
ボルトサイズ ねじの方向	【M22】 左右輪:右ねじ (新・ISO方式) / 右輪:右ねじ 左輪:左ねじ (従来ISO方式)
ホイールナット 使用ソケット	平面座 (ワッシャー付き) ・1種類 / 33mm (従来ISO方式の一部は32mm)
ダブルタイヤ	1つのナットで共締め
ホイールのセンタリング	ハブインロー
アルミホイール履き替え	ボルト交換



アルミホイール・スチールホイールの取り扱いミスによる車輪脱落事故も発生しています。
アルミホイール ↔ スチールホイール組み換え時には、誤組み付け、部品の誤組みに注意してください。

詳しくはこちらの資料をご覧ください ▶ <https://www.jama.or.jp/operation/truck-bus/docs/Torque.compressed.pdf>



ホイールボルト、ナットや ディスクホイール、ハブの錆に注意！



ホイールボルト、ナットやディスクホイール、ハブの経年使用に伴う著しい錆によるものと思われる「車輪脱落事故」が発生しています。
著しい錆のあるボルト、ナットやホイール、ハブは使わないでください！

ホイールボルト、ナットの錆

ホイールボルトやホイールナットの経年使用に伴う著しい錆があると、規定の締め付けトルクで締め付けても、十分な締め付け力が得られなくなります。

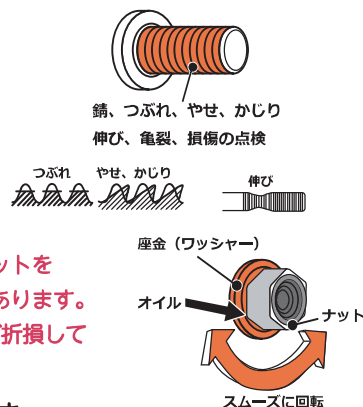
【ホイールボルト、ナットの点検要領】

- 著しい錆の発生がないか点検します。
- 亀裂や損傷がないか点検します。
- ねじ部につぶれや、やせ、かじりなどが点検します。
- ボルトが伸びていないか点検します。

※錆や汚れを落とし、ねじ部にエンジンオイルなど指定の潤滑剤を薄く塗布してナットをボルトの奥まで回転させたとき、スムーズに回転しない場合は、ねじ部に異常があります。異常がある場合は、ボルト、ナットをセットで交換してください。また、ボルトが折損していた場合は、その車輪すべてのホイールボルト、ナットを交換してください。

- ナットの座金（ワッシャー）が、スムーズに回転するか点検します。

※ナットと座金（ワッシャー）のすき間にエンジンオイルなど指定の潤滑剤を薄く塗布し、回転させて油をなじませます。ワッシャーがスムーズに回転するか点検し、スムーズに回転しない場合はナットを交換してください。
ナットの座面（ディスクホイールとの当たり面）には潤滑剤を塗布しないでください。



【著しい錆の例】



◀ホイールナットとワッシャーに変形が見られ、ワッシャーがはずれかかっている。

ホイールナットに生じた錆や付着したゴミ等により、ワッシャーの摺動部が固着している。



ディスクホイール、ハブの錆

ディスクホイールやハブの経年使用やこれまでの清掃不足に伴う著しい錆は、締め付け力の低下（緩みの発生）をまねきます。

【ハブの点検要領】

- ホイール取付面に著しい錆の発生がないか点検します。
- ホイール取付面に著しい摩耗や損傷がないか点検します。

※ディスクホイールの破損や、ホイールナットの緩み、ホイールボルトの折損などは、車輪脱落事故の原因となります。

【ディスクホイールの点検要領】

- ホイール取付面、ホイール合わせ面、ホイールナット当たり面に著しい錆の発生がないか点検します。
- ボルト穴や飾り穴のまわりに亀裂や損傷がないか点検します。
- ホイールナットの当たり面に亀裂や損傷がないか点検します。
- 溶接部に亀裂や損傷がないか点検します。
- ホイール取付面、ホイール合わせ面、ホイールナット当たり面に摩耗や損傷がないか点検します。

※ホイール取付面、ホイール合わせ面、ホイールナット当たり面の経年使用に伴う著しい段付き摩耗は、ホイールナットの緩みの原因となります。

※ホイール取付面、ホイール合わせ面、ホイールナット当たり面には、追加塗装は行わないでください。厚い塗膜は、ナットの緩みやボルト折損の原因となります。



【著しい錆の例】



ハブ（ホイール取付面）

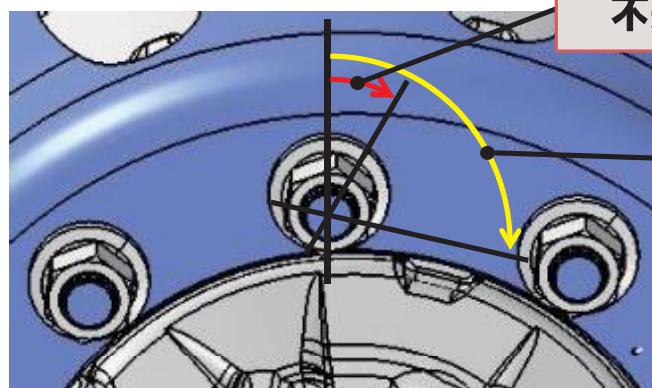


ホイールボルト、ナットや ディスクホイール、ハブの錆の影響

なぜ錆び落とし、給脂を実施するのか、実施しないとどうなるのか

ホイールボルト、ナットの清掃・給脂

ホイールボルト、ナットのねじ部や、ナットと座金（ワッシャー）の摺動面に
ごみや泥、錆があったり、給脂をしないと、ナットが円滑に回らなくなり、
規定の締め付けトルクで締め付けても、ナットが本来あるべき位置まで
締まらず、**十分な締め付け力が得られなくなります。**

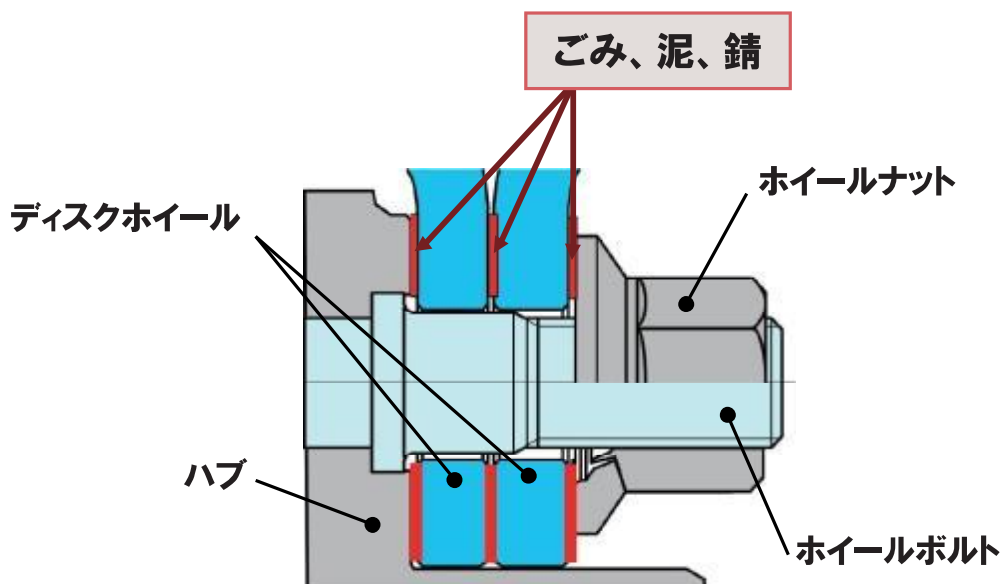


不適切な状態で締め付けたナット回転角度

正しく締め付けたナット回転角度

ディスクホイール、ハブの清掃・錆落とし

ディスクホイールとハブ接合面にごみや泥、錆があると、これらが潰れたり、
剥がれることで、**締め付け力の低下（緩みの発生）をまねきます。**



予兆検知装置の導入で、 大型車車輪脱落事故ゼロへ。 安全な運行を支える、 プラスアルファの 「安心」を。

車輪脱落 予兆検知装置 導入企業 インタビュー

車輪脱落事故防止に向け、国による支援も始まり、「車輪脱落予兆検知装置」の導入が広がっています。現場の声を通じて、導入効果や活用状況をご紹介します。

やっぱり 安心感じゃないですか。

私たちが一番大切にしているのは、当たり前前、点呼前には必ず日常点検を行います。毎朝、点呼前には必ず日常点検を行います。タイヤ交換の際には錆を落として、潤滑油をきちんと塗る。何かおかしいと感じたら、運行中でもすぐに整備担当へ連絡するよう、ドライバーには日頃から伝えています。

車輪脱落予兆検知装置を知ったきっかけは、取引先からの紹介でした。以前、車輪の脱落による痛ましい事故のニュースを目にしたこともあり、車輪脱落は、人命に関わる重大な事故につながる



株式会社明和運輸 九戸営業所
所長 武尾 雅樹 様

という強い危機意識を持っていました。そうした中でこれからこうした安全装置がスタンダードになっていくのではないかと話もあり、整備担当や社長とも相談して、営業所の20台に導入することを決めました。もちろん、装置を導入したからといって、これまでの日常点検を変えたわけではありません。「装置があるから点検をしなくてもいい」ということではなく、あくまで日々の点検に加える「プラスアルファ」の安全対策だと考えています。毎朝、自分の目でしっかりと確認し、さらに走行中は装置にも車輪の状態を見守ってもらう。ドライバーにとって安心材料が一つ増えることで、より安全な運行につながればと思っています。

安全を支える技術は、これからも進化していくと思います。新しい技術や装置について情報を得たときには、整備担当やドライバー、メーカーの皆さんと相談しながら、自分たちの現場に必要なものを見極め、積極的に取り入れていきたいですね。



予兆検知装置受信機

安心要素が1つ増えたことによって、 運転に集中できるようになりました。

日々、自分の目でしっかりと点検していますが、走っている間は車輪を見ることができません。実際に走行中、装置のアラームでナットの緩みに気づき、すぐに停車して整備することができました。機械だけに頼るつもりはありませんが、常に見守ってもらえているという安心感は心強いですね。



株式会社明和運輸 九戸営業所
ドライバー 下條道 悠 様

安全への備えが、企業の信頼を育む。

車輪脱落事故を未然に防ぐことは、安全を守ることはもちろん、企業の信頼を守ることにもつながります。日常点検の徹底に加え、予兆検知装置の導入など、安全への多角的な取り組みが、お客様や社会から選ばれる企業づくりを支えます。

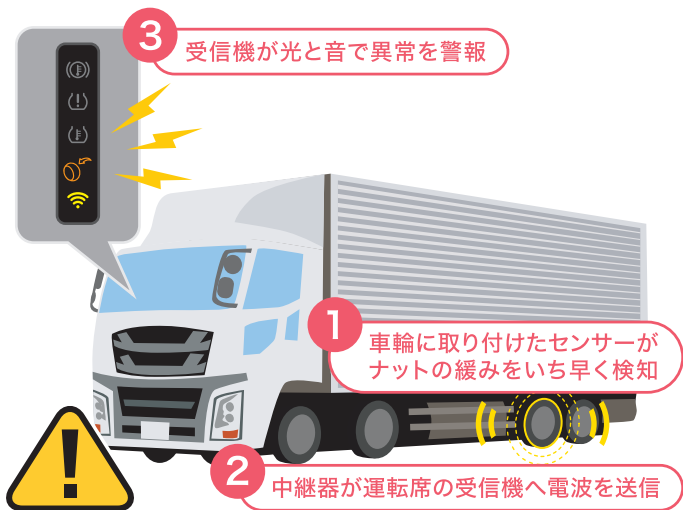
「車輪脱落予兆検知装置」導入のご案内

車輪脱落予兆検知装置とは？

大型車の車輪脱落事故はトラック走行中に発生することが多く、走行中にボルトやナットの異常に気づくことは非常に困難です。

この課題を解決するのが「車輪脱落予兆検知装置」。走行中のホイールナットに異常が発生し、車輪脱落の恐れが生じた場合、予兆をすばやく検知し、ドライバーに知らせます。

車輪脱落事故を防ぐことはもちろんのこと、日常業務で忙しいトラックドライバーの業務負担を軽減するのにも役立つ装置です。



※機能には限界があります。日常点検整備も併せて必ず励行ください。

装置の導入を支える補助金制度

国土交通省では「令和8年先進安全自動車（ASV）の導入に対する支援」の一環として、装置導入時の費用の一部を支援する補助金制度を実施しています。

一定の条件を満たせば、車輪脱落予兆検知装置費用の半減（※最大）が見込めます。この制度を積極的に活用して、事故防止に繋がていきましょう。

車輪脱落予兆検知装置補助金制度	
補助対象車両	車両総重量8トン以上のトラック 乗車定員30人以上のバス
補助上限	50,000円（後付け装置を含む）
補助対象装置	国土交通大臣が選定した装置
補助申請受付期間	2026/6/30（火）～ 2027/1/29（金）まで ※予算枠に達し次第終了となります。 早めの申請をお願いいたします。

詳しい情報はこちら ▶ <https://ataj-asv.jp/>

車輪脱落予兆検知装置は、車種・軸構成により適合が異なります。
導入を検討される場合は、お近くの大型車メーカー4社販売店にまずはお問い合わせください。

取り付けの可否、導入費用、補助金の対象可否など、どんなことでもお気軽にご相談を。